



保育参観・講演会

日時 9月5日(土)

保育参観

乳児組……9:00～9:30

幼児組……9:30～10:15

自転車講習会…10:30～10:40

(南警察 交通指導課)

講演会……10:45～12:00

講師:ZEN呼吸法

シニア呼吸アドバイザー

藤井 恵先生

参観は親子で楽しめるあそびを計画しています。また、日頃の園生活の様子をお知らせしたり、家庭での様子なども伺う機会としたと思います。

参観後は南警察交通指導課の方より自転車の乗り方についての講習会があり、その後、講演会を行います。

講演会は、呼吸を通して緊張の緩和や健康法、リフレッシュの仕方など教えていただきます。子育ての参考にもなる、楽しいお話です。ぜひご参加ください。なお、講演会参加の際は動きやすい服装で、バスタオル1枚ご持参ください。



お年寄りを大切に

敬老の日は昭和41年から国民の祝日(9月15日)に加えられ、平成15年に9月の第3月曜日になった比較的新しい祝日です。「多年にわたって社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」だけでなく、すべての国民が高齢福祉について、関心と理解を深める日であると言えます。

当園では17日(木)に地域の老人会の方々をお招きして敬老会を催し、一緒に交通安全キャンペーンに参加するなどして、年長組と触れ合います。この機会を通して、お年寄りを敬う気持ちが少しでも、持てるようにしたいと思います。日頃より、まず大人が示し、その態度から子どもたちは学ぶものだと思います。



平成27年 9月の園だより



「心に寄り添う保育」

「心に寄り添う…」先日、りんごの木子どもクラブ代表の柴田愛子先生のご講演を聞く機会に恵まれました。愛子先生(親しみを込めて…)の「心に寄り添う」という言葉がとても心に残りました。「心に寄り添う」とはどういうことなのでしょう。

子どもたちの「心に寄り添う」ためには、まずは、子どもがあるがままを無条件で受け入れることだろうと思います。子どもにとって最もつらいのは、受け入れられないことであり、一番いけないことは否定や無視をすることです。

一般的に、子どもの成長発達は、発達理論のものさしでみる傾向にあります。そうすると、成長が「早い」、「ふつう」、「遅い」という評価がなされます。私たち大人は、いつハイハイをした。いつつかまり立ちをした。独り歩きはいつ。オムツが取れたのはいつ。と、生まれてすぐから子どもたちを無意識に評価しています。しかし、発達データはあくまで平均値であり、何か違うというサインを見逃してはいけませんが、その子の成長の特性にある程度幅をもつ必要があります。

成長に個人差があるということは誰もが理解できますが、実際に歩くのが遅い子が歩けるようになった時、保護者は、心から嬉しいと思うのではなく、ホッと安堵するそうです。眠れないくらい心配してきたからこそであり、その気持ちはよく理解できます。しかし、安堵は子どものできたという気持ちを素直に受け入れたことにはならず、自己肯定感にはつながらないそうです。あるがままを無条件に受け入れることがいかに難しいか、誰にも様々な感情がありますが、その感情が心の前に出てしまうと無条件で受け入れたことにならないのです。

話が変わりますが、こんな話を聞いたことがあります。小学校入学前の双子に、「雪が溶けたら何になるの?」と尋ねたところ、一人は「水になる」と回答し、もう一人は「春になる」と回答したそうです。回答とすれば

いずれの回答も正しいと思いますが、どちらかとなれば「水になる」が学校教育では正解であり、早く暖かな春が来てほしいと待ち望むその子の思いはバツサリと切られてしまいます。かといって「春になる」という思いを無理に正しいとしてあげる必要もありません。その気持ちをとりあえず肯定してその思いを認めてあげればよいのです。肯定することが心に寄り添うことになります。

心に寄り添う保育とは、あるがままに無条件で受け入れるとともに、肯定して認めてあげることです。また、子どもの気持ちを決めつけたり、正しい答えを教えたりするのではなく、子どもが何を感じ、何を考えているのかを引き出すことであろうと思います。

大人、子ども関係なく、人間は誰でも、自分のことをわかってくれている人がいると気持ちが落ち着きます。寄り添ってくれる人がいれば、もう一歩前に踏み出すことができます。子どもの「心に寄り添う保育」こそが、子どもの心を育てることにつながると思います。「教え込む」「しつける」「叱る」「怒る」といった否定的なかかわりは極端ですが心を育てている今でなくていいと思います。今の子どもたちには、認められたり、褒められたり、可愛いと言われたり、そういった肯定的な関わりがたくさん必要なのです。

子どもがあるがままを受け入れるためには、大人が「心に余裕」をもつことがいかに大切であるかということです。本来であれば日常生活の中で自然と生まれてくるものですが、時間に追われる毎日では、むしろ意識的につくらなければなりません。毎日10分でもいいから子どもの一日を振り返り話し合う。短時間でも肩の力を抜いてボーっとする時間をつくる。時には、保護者同士で立ち話をしてみる。心の余裕のもち方は人それぞれだとは思いますが、心に余裕をもって心に寄り添えればきっと素敵な子育てライフになると思いませんか。

子育て応援コラム

「やる気」

「子どものやる気を育てるにはどうしたらいいでしょうか」とときどき聞かれます。

「あれしなさい」「これしなさい」と言ってもちっともやる気にならない、ついつい最後は怒ってしまうという悩みですが、そういう時は少しやり方を変えて、「ありがとう」「たすかったよ」「うれしいよ」と言う言葉で方向付けをする方法があります。

お片付けの場面などでも、こちらが先に片付けだして少しでも手伝ってくれたら「あ、てつだってくれるの?ありがとう」「きれいになったね。たすかったよ」と伝えていくと子どもも意外と動き出すかもしれません。

子どもの方向付けを「叱る」「怒る」という方法ばかりしていると、そのうち効き目がなくなりもっと叱らねばならなくなります。あるいは、保護者の顔色を見るようになりびくびくする子どもになります。そして保護者のいないところでは、ちっともやろうとしません、自発性が育たないのです。

「ありがとう」「たすかったよ」「うれしいよ」と言う言葉で方向付けをしてゆくと、時間はかかるかもしれませんが『自分の存在は親の役に立つんだ、親を喜ばせることができるんだ』と自己肯定感が育ちます。

叱られないために動く子どもと、人の喜びを糧として動く子どもと、私たちはどちらの子どもを育てたいでしょうか。そのために必要なのは、保護者の言葉かけの工夫と、少しばかりの忍耐ではないかと思います。

病院診療内科 明橋大二

保育関係誌

「子どもとの関わり方ワンポイント」より抜粋

敬老の日に 火の用心の贈り物

いざという時に備えて住宅用火災警報器、消火器などを備えましょう

9月1日 防災の日
9日 救急の日



広島市南消防署